

わっしょい 輪

つしよい!

いちのせき
協働ニュース

2013年12月

vol.2



千厩町まちづくり
団体連合会を
紹介します!

千厩町まちづくり団体連合会

会長：永澤由利
住所：一関市千厩町千厩字北方 174番地
電話：0191-53-3904

ILC実現をイメージしながら地域づくりを考えるまちづくり団体連合会の役員ほか参加者

魅力あるまちづくりの推進

千厩地域に31ある自治会の連合組織である千厩町自治会協議会は、これまで住民主体の地域おこし活動や地域課題の解決に力を合わせて取り組んできました。

そのような中、平成17年の市町村合併を機に、地方分権が進み住民自治のあり方が問われていることに着目。これからの地域課題の共有と解決に対応するため、地域に対する誇りと自信を持って魅力

あるまちづくりを推進しようと、千厩・小梨・奥玉・磐清水の各地区まちづくり協議会や商工会、PTA連合会など31団体に呼びかけ、その呼びかけに応じた町内のほぼすべての団体が賛同し、平成17年11月に「千厩町まちづくり団体連合会」を設立しました。

現在は、設立時よりも多い37の団体が構成団体となり、話し合いを行いながら魅力あるまちづくりの推進に取り組んでいます。

協働推進アクションプランを実践

連合会の活動としては、事業資金を得るための映画会の開催や、地域資源を見直し活用を図るための地域づくりの集いのほか、自治会を含む加盟団体が地域課題を出し合い解決策を検討するための話し合いなどを行っており、平成22年に市が策定した協働推進アクションプランの地域協働の取り組みのさきがけとなっています。

東日本大震災では、地域住民から隣町の気仙沼に「必要な物資をいち早く届けなければ」との機運が高まり、自治会協議会が社会福祉協議会と連携し「毛布1枚、米1合運動」を展開しました。

まちづくり団体連合会は、その機能を生かして関係機関と連携し情報の共有を図り、被災者のための入浴バス運行など、市と民間企業等との協働により、ミスマッチにならないような支援活動を行ってきました。



「地域づくりの集い」

これからの地域づくりへ

地域コミュニティをより良くしていくため、暮らしに役立つお知らせやイベント情報などをメールでお知らせする「地域限定まちづくりメール配信事業」を市の地域おこし事業を活用して行いました(写真右下)。また、国際リニアコライダー(ILC)東北誘致に向けたPR活動や誘致後のまちづくりを考える視察研修(写真上)など、これからの地域づくりに対応した事業にも取り組んでいます。

このような一連の取り組みを通じて思うことは、千厩地域の住民は「一人一役による地域づくり」をよく認識し、地域コミュニティが機能していたということです。

地域のまちづくりのリーダー役は、そうした地域の人たちの思いを大切にしながら自治会活動やまちづくりに結びつけていかなければならないと考えています。



昨年11月メール配信事業開始式



厳美地域活性化推進協議会

会長：小野寺 實
住所：一関市厳美町字沖野々116-6
電話：0191-29-2205（厳美公民館内）



今年で9回目の開催となった「むかさり行列」

団体の特徴

厳美地域活性化推進協議会は、平成7年に厳美地区の将来を考え、活性化を図ることを目的に設立。厳美地区の全地区民で構成されています。主な活動として、「むかさり行列」や「小正月行事」を実施。地域の元気のため、厳美地域が一丸となって取り組んでいます。

厳美地域活性化推進協議会の会員で構成されるむかさり実行委員会は、11月4日に、第9回むかさり行列を実施しました。

「むかさり」とは、婚礼、嫁入りを意味する東北地方のことば。一関地方では、大正時代の中頃から始まり、昭和30年頃までむかさり行列が行われていました。

平成15年からは、伝統の継承と地域の活性化につなげようと、地域が一丸となって「むかさり行列」を盛り上げています。地域おこし事業補助金や、地域からの寄付を活用し、平成25年までに9回の実施、厳美地域の恒例の行事として定着しつつあります。

10月には実行委員会を開き、当日の進行などを入念に確認。長持ちや正客、仲人など、それぞれの役割を地域で分担し行列に参加することはもちろん、振る舞い餅作りなどの裏方としても多くの人々が参加します。昔からの仕切りを覚えている人も少なくなっていることから、三三九度などの伝統儀式を若い世代へ継承することも大きな目的となっています。また、話し合いの中では、今回はこんなところで苦労した、今回はこの点を改善しよう、など積極的に意見が挙がりました。こうした地域の熱意が、むかさり行列の成功にとって欠かせないものです。

今後、むかさりなどの行事の実施を通じて、地域の人々の親交を深め、交流の輪を広げていきます。



松原自治会（大東町摺沢）

会長：藤城 修一
問い合わせ先：0191-72-4073
（大東支所地域振興課内）



今年の夏も日本大生物資源科学部の学生と交流しました

団体の特徴

松原自治会は、大東町摺沢地区の南側に位置し、会員が28戸と比較的小さな自治会ですが、年間を通じていろいろな活動、取り組みをしており、「3つの“わ”（和・輪・話）」を大切にしながら支え合う松原を目指しています。

「今日も元気カレンダー」、**「松原自治会報」の発行**

平成21年1月から2年間、地域の行事予定や会員の家の紹介写真を掲載した「今日も元気カレンダー」を毎月発行しました。また、平成23年4月からは、カレンダーに代えて「松原自治会報」を発行しており、会議や行事のお知らせ、実施した行事の様子などを紹介し、自治会内で情報共有を図っています。

「松原自治会館40周年記念誌」の発行

自治会館の建設から40年になることを記念し、平成21年に市の地域おこし事業の補助を受け、松原の歩みを記念誌として発行しました。自分たちの生まれ育った松原を、自分たちの手でいろいろな角度から取材し編集することによって、故郷を再認識することができ、また、冊子という形で後世に残せたことは、自治会員の貴重な財産となっています。

日本大学生物資源科学部学生との交流

平成21年度から日本大学生物資源科学部学生の農業体験研修を自治会として受け入れています。当初は自治会館に宿泊してもらっていましたが、入浴などの関係から個人宅へのホームステイという形に切り替え実施しています。農業指導や食事の世話など自治会の方々の協力により実施しています。学生との交流は地域のパワーになっています。



室根まちづくり協議会

会長：三浦 幹夫
住所：一関市室根町八幡沖345
電話：0191-64-2111（室根支所地域振興課内）



7月に開催された3回目の室根まちづくり協議会部会

団体の特徴

室根まちづくり協議会は平成24年4月24日に設立され36団体と自治会連合会から推薦された委員4名で構成されています。

今年で2年目となり、「自分たちの出来ることは自分たちで」を合言葉に役員会の開催や部会の開催、視察研修会、アンケート調査の実施と充実した事業内容となっております。

今年度から2年間を目標にまちづくりビジョンを作成するため、協議会の中に総務企画部会・産業経済部会・生活福祉部会の3部会を設置、5月から1回単位で部会を開催しております。内容は、①室根の良さを再確認しよう、②室根の問題点、③室根の将来像など、多方面にわたる話し合いの中から、良い点、悪い点を洗い出し、10年後の室根地域がどうあれば良いのかを皆さんで話し合っています。

また、まちづくりビジョンの作成や今後の部会への室根地域民の考えを反映するために、7月から8月にかけて、小中学生は各学校に依頼、一般は各自治会に依頼する方法でアンケート調査を実施しました。

現在、事務局で結果をまとめるための作業を進めています。結果がまとまりしだい協議会の中で結果報告、地域への会報でのお知らせを行う予定です。

昨年は、将来の室根がどうあれば良いかを探るため、宮城県大崎市と青森県八戸市を訪問する視察研修を実施しましたが、今年度は長野県川上村を視察研修しました。

川上村は山間地帯で野菜を中心とした農家が多く、農家一戸当たりの平均年収が2500万円と高収入を得ており、その内容や行政の考え方、今後の方向性等を伺い、室根のまちづくりに活かして行きたいと思います。



川崎町高成自治会

会長：遊佐 芳國
住所：一関市川崎町薄衣字高成33
電話：0191-43-4398（高成研修センター）



花壇の後片付け

団体の特徴

昭和54年度に自治会組織として発足し、現在の会員数は50世帯。

主な活動は、花壇づくりへの取り組みと新年会及び歳祝い等の各種自治会事業の実施。もちろん、地域の行事へも積極的に参加しています。

何事にも、「皆でやろう!」とする意識が高く、会員の持ち味を活かした自治会づくりを主体としながら、楽しく活動しています。

川崎町高成自治会は、総務部、産業部、教育文化部、体育厚生部、社会部、女性部の6つの部で構成され、各部ごとに役割を担いながら活動を行っています。

特に花いっぱい運動については、部の枠を超え、自治会全体で取り組み、毎年きれいに花が咲く花壇は、行き交う人達の心を和ませています。春先からはハウスで種を蒔いて苗を育て、花壇の土づくりやデザイン等花壇構想がスタートします。

今年の花壇は、ひと際目を引くへびの干支のオブジェを設置し、ジニアや松葉ボタン等総本数約1,500本の苗が植えられました。暑さと長雨により花壇管理には苦労しましたが、自治会総出での花壇管理により、見事、一関市の花いっぱいコンクールにおいて教育長賞を受賞しました。

この花壇づくりへの取り組みを通じ、子供から高齢者まで、自治会会員同士が顔を合わせる機会が増え、信頼と交流の輪が広がりました。子供達が敬老会に併せて高齢者へプレゼントを届けたり、災害時には誰が言うともなく、自主的に活動を行うなど、自治会としてのまとまりにもつながっています。

少子高齢化の時代、自治会内での関係も希薄化している中、高成自治会は会員相互の親睦を図りながら信頼と融和のもと、元気を発信しています。



いちのせき市民活動センター

NPO・行政・企業・地域の情報発信によりアイデアと出会いの機会を創ります

いちのせき市民活動センターは平成20年に市民活動の拠点として開設され、市民団体や地域コミュニティ、「地域のために何かしたい」という皆さんの活動を応援しています。今年度からは特に、市の「協働のまちづくり」推進にあたり、市と住民の皆さんの間に入り、それぞれの地域に合った「協働」の在り方を考え、構築し、実践していくためのサポートに力を入れています。

いちのせき

住所：一関市大町4-29 なのはなプラザ4F
電話：0191-26-6400 / FAX：0191-26-6415



せんまやサテライト

住所：千厩町千厩字町149
電話：0191-48-3735 / FAX：0191-48-3736



ホームページ：<http://www.center-i.org/>
メール：center-i@tempo.ocn.ne.jp
ブログ：<http://blog.canpan.info/ichinoseki/>



■協働を伝える紙芝居～夢造物語～■

当センターでは今年5月、地域からの「協働って何なの?」という声を受け、スタッフ手作りの紙芝居「ささえようぼくらのちいき」を制作しました。より具体的に自分たちの地域のことと重ねながら見ていただけるよう、身近な団体や地域行事を題材にストーリーを構成。各地の自治会長・民区長さんなどへの説明会等で上映しています。

主人公の「夢造」は変わりゆく自治会の姿に頭を抱えますが、視野を広げ、同じ地域内の他自治会や各種団体とも話をできる場を設けたことで、自分の自治会内だけでは解決できなかった問題に様々なアイデアや協働体制が生まれていったのです。

一関市における協働の定義「継続した話し合いの場」は、夢造たちのように、自治会や民区など従来の集落単位だけでなく、少し視野を広げた公民館エリアを一つの地域として、様々な問題を共有し、解決に向けた話し合いをしていくことを目指しています。

紙芝居は地域で協働について考えていきたいという時の導入や話し合いのきっかけとして、ご要望をいただければ当センタースタッフが上映に参りますので、お気軽に各地域担当者にお声掛けください。



センター長の一言日記

講演や懇談会などで各地域にお邪魔させていただき、地域のみなさんからたくさんのお話を聞かせていただいています。地域事情や背景は、その地域によって異なりますが、「少子高齢化」「役の成り手がいない」「若者が地域に参加しない」という声は、どの地域にも共通しています。この課題は、一関市だけでなく全国的に起こっていることですが、

どの地域でも暗中模索しながら、様々な話し合いがなされたり、取り組みがされています。

私たちが、なぜ地域づくりをするのか?の問いの答えは、その地域で幸せに暮らすためです。幸せの基準は一人ひとり違いますが、住んでいて良いと思える地域を実現するための手法として地域協働を進めていく必要があると感じています。

用語解説 地域協働体とは?

地域協働体とは、市内31の公民館の管轄区域を基本として、地区内の自治会と各種団体等で構成し、地域協働のまちづくりを市民が主体となって進めるための組織のことを言います。

いちのせき協働ニュース っしょい! について

前回発行した第1号はいかがでしたでしょうか?各地域でそれぞれの特徴を生かした活動が行われています。この紙面で紹介できる活動はほんの一部ですが、協働のまちづくりについて興味を持っていただいたり、今後の地域づくりの参考にいただければ幸いです。